

「へへへ。マイ、楽しもうぜ♥」

ベルルはマイのデカ乳を優しく揉んだ。

「……はあん♥……あはあん♥……へあ♥」

微かに女性のよがり声が聞こえる。俺はどれくらい気を失っていたのだろうか？

意識が徐々に戻り始めたが、首は先ほどの張り手の衝撃で右側に大きくねじれていて、正面を向くことが全くできない。目を開けても、横の景色しか見えない。よほどの衝撃だったのだろう、体も膝から崩れたままで、全然立ち上がれない。そんな状態の俺の耳には、はつきりと女性のよがり声と男性の荒い息づかいが聞こえてくる。

「はあん♥……あはあん♥……乳首……気持ちいいん♥」

「むちゅ♥……レロレロ♥……ペしゃペしゃ♥」

オッパイをむしゃぶる音と、喘ぎ声が徐々にはつきりと聞こえ始める。

「はあ♥はあ♥……マイ……オッパイ……はあ♥……でっけー♥」

「はあん♥もつと……吸ってええ〜♥」

「むちゅ♥くちゅ♥ペろしゃぶう♥くちゅペろ♥れろペろれろペろ♥」

「くひい♥……乳首……きんもちいい♥」

「ほらよ♥右の乳首も指で摘まんて……おらおら♥」

「ひい♥乳首……感じるう……あひい♥」

「しゃぶりがいのあるデカパイだぜ♥……さてと、オマンコは、っと。えへへへ♥

おいおい、べっちゃべちゃじゃねーか♥オマンコ汁すげーぜ♥

「はあん♥オマンコ、たくさんいじってえ♥」

「俺の手マンは凄え〜ぜ？」

「じゅぶう♥じゅぶじゅぶ！くちゅくちゅくちゅ……♥」

湿り気のあるエロ音があたりにこだます。

「あへええ♥上手ううう♥てて……手マン……うまあい♥……すごい♥」

「くちゅくちゅ♥じゅぶじゅぶ♥ちゅぶちゅぶ♥くちゅくちゅぐちゅぐちゅ♥」

（わわ……すげえ〜★……ここまでオマンコをかき回す音が聞こえるう★★めっちゃマイのやつ、興奮してるう★★）

マイの手マンの音を聞いて、俺のチンポは、にわかには勃起し始めた。

「じゅっぶ！じゅっぶ！じゅっぶ！じゅっぶ！じゅっぶ！じゅっぶ！じゅっぶ！じゅっぶ！」

「いいん♥いっちやうう♥……いく♥いく♥いくう♥」

「ぶじょ〜〜♥……ぶしゃ〜〜♥」マイの大潮噴きの音が聞こえる。

（すげー★大潮ふきかよお★）

「ビックンビックン！」俺のチンポは大勃起をかまし、パンツの脇から勃起したチンポをはみ出させてしまう。

「おわあ♥出た出た♥大潮吹きだなあ♥感度抜群じゃねーかよ♥マイちゃん♥……ん？エクセリオンのやつ、目覚めたのか？」

「はぁ♥はぁ♥…え?…エ…エクセリオン様、気が付いたあ?」
「こいつ、気が付いてるぜ。だって見ろよ。くくく、包茎チンポが勃起してるじゃん笑。
マイちゃんの喘ぎ声で興奮しちゃったか?じゃあ、もっともっと興奮させてやるよ笑。こ
いつの目の前でやろうぜ」

「ん、ぎぎ!ぶぶ…ぶぶぶば! (あ、あわ!首…回らねえ★★★)」

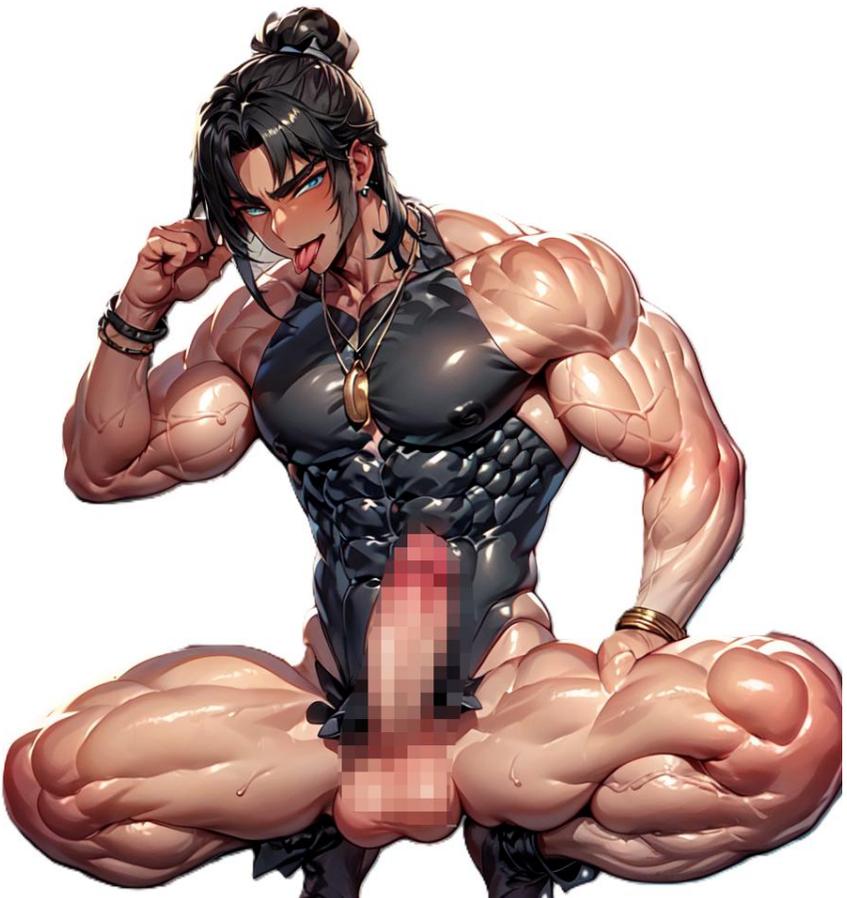
「声も出ないだろ?ガチで俺の張り手くらったら、もどに戻るまでに2日はかかるぜ笑」

「ぎ…ぐぐぐ…ぶぶう★★★(そ…そんな…ああ★★★)」

「その無様な格好のまま、2日間はセックス、お預けだな笑。心配すんたってマイちゃん
はたっぷりかわいがってやるよ!!」

「んんん…ぶぶぶぶぶう!! (そんな…やめてくれえ!!)」

「ゲラゲラ!その無様な格好で、黙ってみとけ、おら!マイちゃん♥また気持ちよくなる
っか♥」



「ああん♥そんな…エクセリオンさまにいじわるしないでえ♥…はぁあん♥ああん♥
また乳首…擦っちゃ♥…いいん♥」

「へへ。乳首吸いながら、乳揉みからの、手マン攻めえ♥」

「ちゅう♥ちゅう♥ちゅばちゅば♥くちゅくちゅ♥ぐちゅぐちゅ♥ぐちゅぐちゅ♥ぐちゅ♥」

(ここ…今度は3点責めかよお★★★好き放題やりやがってええ★)

(くう★見えないのが…また興奮するう★★★…想像でモヤモヤしちゃう★★★)

「乳首吸われると・・・気持ちいい♥♥♥アへえ♥♥♥クリもいじられて・・・あほおこの、格好・・・恥ずかしい♥♥♥大股開きで抱えられちゃってるう♥」

（おお・・・大股開きで手マンかよお★・・・俺の正面でそんなエロい格好で・・・俺の勃起包茎チンポは、つるつると透明なガマン汁を無様に垂れ流していた。

「じゅぷっ♥♥♥じゅぷっ♥♥♥じゅぷっ♥♥♥じゅぷっ♥♥♥!!!」

（おお！おお！マン汁音すっげええ・・・★★）

「ままま、また・・・でで・・・出ちやううう・・・♥はああああ♥・・・いぐう♥

「じゃぶじゃぶじゃぶう♥ばしや♥ばっしやああ♥」

マイの潮吹き汁が俺の勃起ペニスを直撃する。

「んぎぎぎい・・・★★★!!!」（イクううう・・・★★★★）

熱くたぎったエロ汁の洗礼を受け、俺はノーハンドマゾ射精を決めてしまう。

「ぴゅ★!どぴゅ★!びゆる★!びゅ★・・・ぴゆる★」

「こいつ、ノーハンドマゾ射精キメてるぜ？興奮しすぎい。ゲラゲラゲラ笑」

「はあ♥はあ♥はあ♥・・・また、お潮・・・出ちやったあ♥」

「マイちゃんよお。今度は俺も気持ちよくしてくれよ♥俺のデカチンいじってよ♥」

「はああん♥ぶつとくて、長い・・・デカチンチン♥」

「お返して、手コキ攻めしてね♥」とベルル。

「シコシコシコシコシコシコ・・・♥」

「おおう♥いきなり・・・手コキ、早えええ♥」

「すご！まだ大きくなるんだあ♥」

「ビキビキビキ！ビクンビクン♥」

「はあん♥デカすぎい♥」

「よし、じゃあ、その負け組ドM短小包茎チンポ君に実況してやれよ♪」

「はい・・・太さは・・・ゆ・・・指輪っかが作れません♥太すぎて♥。長さは・・・え〜っ

と・・・すご！24センチ君で〜す♥。亀頭は・・・すごい♥ぼっこりと大きくて・・・エラ

が張りかえってるう♥・・・血管も幾筋も浮き出でて、硬さもバッキバキい♥・・・ああ♥

もうダメ♥おしゃぶりしますう♥」

「むちゅ♥ちゅ♥んぼんぼん♥ちゅっ♥ちゅば♥えろれる♥」

「あはははは。我慢できなくなっちゃったか？いっばいおしゃぶりしろよ♥」

「ふる！ふるふる！」俺は自分のチンポをふるると震わせたさせた。

（そんなあ・・・躊躇なく、ベルルのチンポにむしゃぶりつくなんて・・・俺の目の前で!）

「あははは。興奮しすぎだぜ♪包茎チンポが勃起して痙攣してるぜ！」

「ぐぐぐ・・・ぶぶ★・・・ぶう★・・・ぶば★（ううう・・・うお★・・・うお★・・・うお★）

「ほらデカパイで挟めよ♥パイズリフェラやれ♥」

「ふあい（はあい）♥へかちん（でかちん）♥はいしゅき（大好き）♥」

「啜えながら言っても何言ってるかわかんねーよ♥オチンポ好きすぎだろ?・・・うお♥

チンポ気持ちいい♥パイズリ・・・やべえ♥」

(そんなぁ・・・★マイの奴、本気でおしゃぶりしてるううう★・・・つか・・・ベルルのチンポ・・・凄すぎい！あんなにデカいなんて・・・俺のとは亀頭の大きさも形も・・・太さも、長さも・・・全然違うううう！)

俺はベルルの24センチの極太ズル剥け勝ち組イケメンデカデカチンポと自分の15センチの皮被り包茎クソ雑魚粗チンポを比べて、大嫉妬してしまう。

ベルルは勝ち誇った表情でマイの頭を優しく撫でながら、フェラチオの快感に酔っている。マイも無様なひよっとこ顔をさらし、必死にデカチンを貪っている。

「パフパフ！パフパフ！んぼんぼんぼ♥ちゅっ♥ちゅば♥」

「マイちゃんってば、デカチン大好きっ娘じゃねーか笑。一心不乱におしゃぶりしちゃって♥もう俺のデカチンにメロメロだなぁ♥」

(ちゅぎゅぎゅ・・・悔しい・・・羨ましい・・・ちくしょくく★★・・・)

「びゅく！びゅく！」俺は興奮のあまり、精子交じりの濁りまくった我慢汁をびゅくびゅくと噴き出していた。